

春日神社

社報 春日神社

第三十一号

発行日 令和元年6月10日

発行者 〒870-0031

大分市勢家町4-6-87

春日神社 宮司 宮本隆之

TEL 097-532-5638

題字 東郷平八郎

もくじ

宮司挨拶／祭典ごよみ

踐祚改元奉告祭／第八回皇居勤労奉仕に参加して

「令和」「万葉集」について

夏季大祭のご案内・巡行路

婚礼部より／丸尾責任役員退任／人事

茅の輪神事

ご挨拶

宮司 宮本 隆之

謹んで聖寿の万歳と宝祚の無窮を寿ぎ奉り、天皇陛下の御即位をお祝い申し上げます。

五月一日、皇太子殿下には第一二六代の天皇として践祚せられ、元号も「令和」に改められました。当社においても責任役員以下六十余名の関係者が参列して践祚改元奉告祭をご奉仕申し上げました。

この度の御代替わりは、平成の時とは異なり祝賀ムード溢れるものとなりました。本来であれば皇室典範に則り、新帝の御即位は今上陛下の崩御を伴うものでありますが、二〇二年振りの御譲位という古式の復興にも関わらず、大きな混乱もなく穏やかに実現されたことは、上皇陛下の深い思し召しによるものと拝し奉ります。

さて、四月三十日と五月一日の両日、御朱印を求める方が全国的に見られたことは各報道で皆様もご存知のことと存じます。当社社頭でも終日対応に追われることとなりました。御朱印にはさまざまな意見が出ておりますが、改元当日に神社に参拝しようとする沢山の方を見ておりますと、「皇室」と「神社」との深い結びつきを、あらためて言うまでもなく感じているのだと思います。連綿と続く日本人の心のありようを見たようで、感慨深いものがありました。

四月一日正午からの記者会見で安倍総理は、「令和には人々が美しく心を寄せ合う中で文化が生まれ育つという意味が込められており」「厳しい寒さの後に、春の訪れを告げ、見事に咲き誇る梅の花のように、一人ひとりの日本人が明日への希望とともに、それぞれの花を大きく咲かせることができる、そうした日本でありたい」と新元号への願いを述べております。

今秋十月に行われる即位礼当日には、当社においても奉祝の誠を捧げるべく、記念行事を予定しております。平成の御世を顧み、上皇陛下の御事蹟に思いをいたすとともに、天皇陛下の御手振りに倣って我々一人ひとりも努力していかなければなりません。新しい「令和」の時代が世の人々にとって素晴らしい時代となりますようご祈念申し上げます。挨拶とさせていただきます。

祭典ごよみ

六月 三十日 水無月 大祓式

七月 十八日 夏季大祭 宵祭

子ども神輿巡行

十九日 夏季大祭 夏越大祭

大神輿巡行

九月 二十五日 摂社天満社祭

十月 十八日 秋季大祭 宵祭

十九日 秋季大祭 神幸祭

潮騒き神事

十一月 十五日 七五三祭

※当日に限らず、毎日祈願祭を奉仕しています

十二月 三十一日 師走大祓式・除夜祭

● 毎月一日・十五日は月次祭

践祚改元奉告祭齋行



令和

「萬葉集」巻五 梅花の歌三十二首并せて序
 初春の令和にして
 気淑く風和らぎ
 梅は鏡前の粉を被き
 蘭は珮後の香を薫らす

五月一日、皇太子徳仁親王殿下には上皇陛下の御譲位を受け直ちに践祚、皇位をお嗣ぎになられるとともに、初代神武天皇以来皇位と共に受け継がれてきた三種の神器を承けられました。当社では同日午前九時三十分より「践祚改元奉告祭」を齋行、大神様に新帝の御代「令和」の始まりを御奉告申し上げました。

二〇二年ぶりとなる御譲位とそれに伴う第一二六代天皇陛下の践祚が恙無くとり進められたことにあたり、揺るぎない宝祚の無窮を寿ぎ謹んで奉祝の誠を捧げるものであります。

尚、今秋の即位礼および大嘗祭に併せて、当社では左記の通りに各祭典を齋行いたします。

即位礼当日奉告祭	十月二十二日(火)
大嘗祭に伴う臨時大祓	十一月十二日(火)
大嘗祭当日祭	十一月十四日(木)

大嘗祭

天皇陛下が即位後、初めて行う新嘗祭を大嘗祭といえます。特別に東西から全国の代表となる「悠紀国」「主基国」が選定され、そこで収穫された新穀を神々に捧げてお祭りが行われます。

令和度 悠紀国(栃木県) 主基国(京都府)
 ※平成度 悠紀国(秋田県) 主基国(大分県)

第八回皇居勤労奉仕に

参加して

平成最後となった平成三十一年四月。十五日から二十日にかけて六日間の日程で第八回皇居勤労奉仕を実施した（団長：宮本隆之、副団長：長瀬良理）。第一回目より参加の熟練された方を始め、今回初めて参加する方を含め総勢二十五名の団となった。概略は次の通り。

参加者の声



初めて皇居勤労奉仕団に参加いたしました。理由は世界の平和と常に国民に寄り添い、国民の幸福を願っておられる天皇皇后両陛下に何かお役に立てることはないかと常々思っていたからです。皇居広場から中へ入場する際には、身の引き締まるというか身震いするような緊張感を覚えました。

四日間、足手まといにならないかなど不安はありましたが、対応していただいた宮内庁の皆さんは厚意をもって接してくださり、皇居内の自然のままの森、史跡、建物、歴史、行事などについて丁寧に詳しく説明・案内をしていただき感激いたしました。こちらのささやかな奉仕以上のおもてなしを十分にいただきました。

天皇皇后両陛下におかれましては、退位を目前に大変お忙しい中にも関わりもせず、御会釈の機会を賜りましたことは人生の中で最高の思い出として深く胸中に刻印されました。皇室の歴史は日本の歴史そのものだと感じると共に、国全体でこの文化や伝統を守りたいと思います。令和の時代も戦争のない平和な時代が続きますようお祈りいたします。



四月十五日 空路で東京へ移動。ホテルにて結団式。

十六日 勤労奉仕一日目（皇居東地区・東御苑）

宮内庁より期間中の説明の後、伏見櫓前にて記念撮影。

一般公開されている東御苑にて除草作業。

午後三時より天皇皇后両陛下の御会釈。

宮本団長、両陛下よりの御下問を受ける。

平成二十八年熊本大地震の復興状況について、励ましのお言葉を賜る。

各団体を代表して宮本団長万歳三唱を先導。

十七日 勤労奉仕二日目（皇居北地区・宮中三殿）

宮中三殿境内・参集所清掃奉仕。

〃四月三十日の御退位、五月一日の御即位に於いて最も重要視され、歴史的転換期の場所であり、緊張の中での作業となった。

十八日 勤労奉仕三日目（赤坂御用地）

東宮御所、各御皇族方の邸宅がある赤坂御用地での作業。

午前十一時から皇太子殿下の御会釈を賜る。

十九日 勤労奉仕四日目（皇居西地区・宮殿）

一般参賀がおこなわれる宮殿にて、庭園の除草作業。

午後三時、宮内庁にて陛下よりの御下問を賜り、勤労奉仕終了。

夕刻、解団式。

二十日 埼玉県川越市、川越八幡神社正式参拝。

参拝後は、小江戸の風情が色濃く残る川越の街並みを散策。

夕刻、空路で大分へ帰着。

今回は膝の調子が悪く、出発の三日前まで悩んだ挙句の参加でした。主人いわく「皇居のご奉仕にいったら治るにきまっちゃうんやん。あそこは神様がおるところやから。大丈夫、行きなさい。」その言葉に、なるほど、そうやったと不安もありつつ参加いたしました。そうして奉仕初日、ご会釈を賜りました。足の悪い人は前にどうぞと団長が言ってくださり、最前列へ。両陛下のお姿が間近にあります。もう二度と直接お目にかかる事は無いと思うと、万歳三唱の後で涙があふれ出しました。旅を終え、お蔭様で膝の具合も良く過ごしています。神様は居ると確信した旅でした。

平成最後のこの春に、天皇后両陛下にお目にかかれる幸せを待つことすら楽しみしていたこの度の勤労奉仕でした。両陛下ご会釈の際には大変緊張しましたが、平成の時代が日本にとって戦争の無い平和な時代であったこと、そして日本に生まれ生きている事への感謝で、本当に胸がいっぱいになりました。

今回の期間中、様々なところで奉仕させていただきましたが、なによりの思い出は宮中三殿境内での奉仕です。テレビなどで拝見する皇室の方々が参拝する場所、二度と私たちが入ることできないであろう場所で奉仕させていただいたことは一生の宝になりました。

数え七十五歳にして初めて皇居に入り、その広大さ、美しさに土地の氣を感じ、身の引き締まる思いでした。両陛下公務御多忙の中、初日に御会釈下さり、目のあたりにして当方直立不動でお言葉を拝聴したとき、畏敬の念さらに強く、日本人としてのDNAが揺り動かされていくのを感じました。有難い宮中三殿の清掃奉仕は、後日退位の儀式として放映された場所であらためてその佇まいの清冽さ、所作の和魂を思い、よくも心を込めて丁寧にできたことは、矜持として己の精神の向上の因となり、更に子孫にも継がれていくものと考えます。

「今日花が咲くのは過去の因縁」

御代替わり直前に控えた今春、初めての皇居勤労奉仕団に夫婦で参加させていただきました。四日間、広い敷地を歩きながらのご奉仕はとても疲れましたが、御会釈を賜った際には感動があふれ、日々感じる皇居内の雰囲気から力をいただき、最後までなんとかやり遂げることができました。園遊会の苗床に使う赤玉土を大さきごとに分別する作業では、みな真っ白になりながら子供に戻った気持ちで楽しく作業いたしました。宮中祭祀等の報道を見るたびに、私たちが心を込めてお掃除させていただいたことを思い出します。



普段一般の方が入れないような場所を案内していただきながら勤めた奉仕の数日は、毎日感謝の日々でした。皇居内は都内とは思えないほど自然が豊かで清々しく、特に宮中三殿の厳かさは感無量になるものがありました。天皇后両陛下にお目にかかれたことは緊張を伴いつつ、感動で涙が止まりませんでした。今回の勤労奉仕は一生の良い思い出です。

知っておきたい

「令和」・「万葉集」について



去る平成三十一年四月一日、時代の節目を物語る出来事がありました。新元号「令和」の発表です。最初の元号「大化」から数えて二四八番目となる「令和」は、日本最古の歌集「万葉集」第五梅花の歌・序から引用され、史上初めて日本の国書から選定されました。

では、その出典となった「万葉集」ですが、全体で二十巻・約四五〇〇首の歌が盛り込まれています。その中には、この大分県とも所縁のある歌が詠まれているのはご存知でしょうか。新元号「令和」に引用された梅花の歌より、

「世の中は 恋繁しえや かくしあらば

梅の花にも ならましものを」

(万葉集巻五・八一九)

豊後守 大伴大夫

(訳) 世の中は恋の煩い(苦しみ)が尽きることはない。

こんなことならば、ただ美しいばかりの梅の花になりたいものです。

この「豊後守 大伴大夫」は大分県に所縁があり、豊後守は現在の大分県知事のような職です。大伴大夫は諸説ありますが大伴三依とされ、大納言の官位にあつた大伴御行の子とされます。

父である大伴御行は、竹取物語で竜の頸の珠を取りに行った「大納言大伴御行」のモデルとしても知られています。

「由布院の歌」四首

①「娘子らが 放りの髪を 本綿の山

雲なたなびき 家のあたりみむ」

巻七―一二四 作者未詳

愛する人を残して山を越えて旅を続けてきました。向こうをみると乙女のお下げ髪のような形をした本綿の山(由布山)がみえます。雲よ、妻の家のあたりを見たいから山の周りにたなびかないでくれ。

②「思ひ出づる 時はすべなみ 豊国の

本綿山雪の 消えべく思ほゆ」

巻一〇―二三四 作者未詳

あなたのことを思い出すと、これはもう、どうしようもありません。豊国(豊後)の木綿山(由布山)の雪と同じで自分も消えてしまいそうなくらいあなたの事が思われます。

③「よしゑやし 恋ひじとすれど 本綿間山

超えにし君が おもほゆらくに」

巻一ニ―三一九 作者未詳

よし、もう恋などはしまいと思うけれど、由布の山を越えていったあなたのごとうしても忘れられません。

④「恋ひつつも 居らむとすれど 遊布麻山

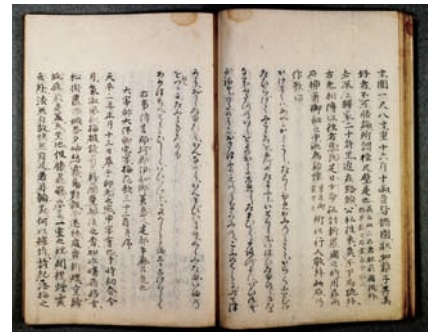
隠れし君を 思ひかねつも」

巻一四―三四七五 作者未詳

恋しく思いながらじつと待つていようと思うけれど、由布の山を越えて行ったあなたのことを思うと待ちきれません。



万葉集卷十一歌碑 - 久住町歌碑の道 -
(1991年11月号 広報「おおいた」より)



『万葉集』(写本) わきらんしつ 協蘭室の自筆

大分県立先哲史料館では現在、平常展「大分の先哲たち」を開催中です。

展示のなかでは新元号を記念して、「令和」の典拠となった『万葉集』巻五、梅花の歌の序文を展示しています。この史料は大分の先哲、帆足万里の師としても知られる協蘭室(江戸末期の儒学者)が書き写したものです。

会期は7月中旬までということなので、ぜひ足を運んでみてください。

大分ゆかりの歌は他にもあり、ここでは由布院と久住をとり上げてみます。

この両地方には別名^と「遠の朝廷^{みかど}」とよばれた太宰府へ続く重要な官道がありました。都と太宰府を行き来する中で、派遣された役人や大陸との防衛の役として赴任する防人が宿駅としたのが由布院・玖珠でした。そこでは七首が詠まれています。

これら「万葉集」の歌は全国で歌碑が建立されており、これら七首も由布院や久住の各地に建立されています。当時の人々の思いは現代人の我々となんら変わりようのないことが「万葉集」を通じて感じさせます。この機会に「万葉集」を読んでみる。また県内の万葉歌碑を巡ってみるというのはいかがでしょうか。

「久住の歌」三首

⑤「明日よりは 我は恋ひなむ名欲山^{なほりやま}」

石踏み平し 君が越え去なば^{なら}
巻九一 一七七八 城原の娘子^{きばる}

明日からわたしはあなたを恋しく思うことでしょうか。名欲山(城原山)の岩を踏みならして越えていつてしまったあなたを。

⑥「命をし ま幸くもがも名欲山」

石踏み平し またまたも来む^{むら}
巻九一 一七七九 藤原連広成^{むら}

どうか命が無事であつてほしい。名欲山(城原山)の岩を踏みならしてまた再びあなたに会いに来るまでは。

⑦「朽網山^{くたみ} 夕居る雲の薄れ往かば^ゆ

吾は恋ひなむ 君が目を欲り^ほ
巻一一 二六七四 作者未詳

朽網山(久住山)に夕方かかっている雲が薄れていったら、私はあなたを恋しく思うことでしょうか。



万葉歌碑公園(大分市生石港町)にある歌碑

しはつやま かさぬい
四極山うち越えて見れば笠縫の
島こぎかくる棚無し小舟
(万葉集卷三 高市連黒人)

四極山は今の高崎山、笠縫島は大分市生石港町の島のことで古来から伝えられています。



夏季大祭が

間近に迫りました



当社祭典の中で一番規模の大きい行事である夏季大祭まであとわずかとなりました。この行事に向けて、当社氏子青年会・総先導を中心に五月から準備会議を開始、そしていよいよ巡行路が決定しました。

神輿の担ぎ手は例年約四百名となっており、今年も氏子町内や一部企業からの参加者を取りまとめています。参加希望のお問い合わせは社務所までご一報下さい。

また、奉賛者各位のご協力により境内や参道には「奉燈」が灯されますので、こちららもご覧頂きたくどうぞご参拝をお待ちしております。

七月十八日(木)

午後四時 宵 祭

午後四時半過ぎ 子ども神輿巡行

(雨天の場合は二十日午前九時に順延)

七月十九日(金)

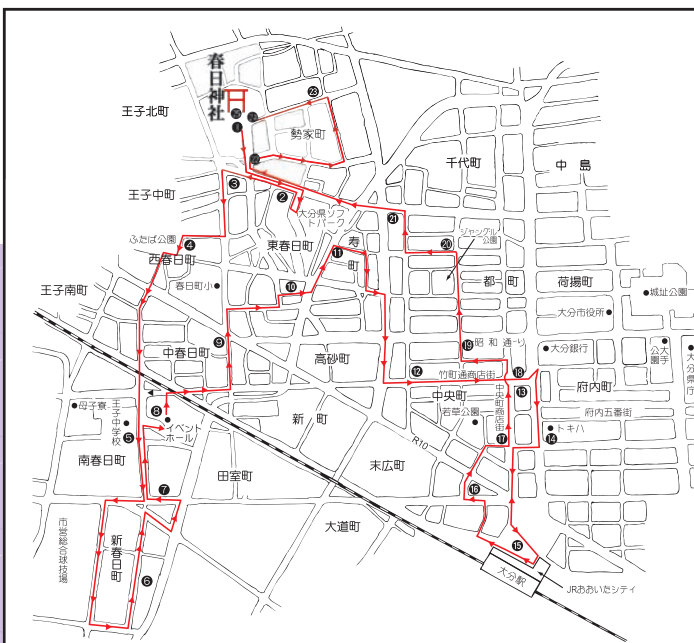
午前十一時 夏越大祭

午後二時 大神輿巡行

※両日とも庄内神楽の奉納があります

《御神輿巡行路》

出 発 式	13:40	14 ト キ ハ	18:10
①春日神社出御	14:00	15 大 分 駅	18:30
②ソフトパーク・OEC	14:10	(夕食休憩)	
③東春日・肉の木村屋	14:20	大 分 駅 発	
④西春日・大野屋ビル	14:35	16 末広町小幡歯科	19:20
⑤王子中学校	15:05	17 ヤノメガネ中央店	19:30
⑥新春日町公民館	15:45	18 ヤノメガネ竹町本店	19:50
⑦南春日・荒金酒店	16:05	19 木村写真本館	19:55
⑧大分イベントホール	16:15	20 都町第一ビル	20:00
⑨10号線・中春日交差点	16:35	21 都町モコ美容室	20:25
⑩東春日・塚川病院	16:55	22 神社大鳥居	20:40
⑪ロイヤルシティー寿	17:10	23 勢家町・松岡商事	21:15
⑫ギャラリー竹町西口	17:35	24 春日神社神門前	21:50
⑬ギャラリー竹町ドーム	17:50	25 春日神社還御	22:00



春日神社ブライダルフェア

春日物語

天の巻

7月7日(日) 14時～15時30分
(受付13時30分～)

- ◆模擬挙式
- ◆八鹿酒造による鏡開き
- ◆フロアショー
- ◆デザートビュッフェ
- ◆お楽しみ抽選会

- ご来場記念品プレゼント
- ご成約特典プレゼント

* 予約優先 *

《お問合せ》

春日神社婚礼係 TEL(097)532-5638

人事

退職

平成三十一年三月三十一日付
巫女 木村美月

採用

平成三十一年四月一日付
巫女 尾上美雨

退任のご挨拶

責任役員 丸尾 啓一郎

今春を持ちまして、三十年にわたる役員総代の任を退く事となりました。実は私の父も責任役員を務めていましたので、親子二代での春日神社との有難い御縁であったと感謝しています。

この間の思い出として特に印象深いことは、やはり夏季大祭の神輿巡行復活でしょうか。昭和六十二年でしたか、時の宮本邦彦宮司から相談を受け、既に神輿を復活させていた天満社に総代数名ほかで訪ね、詳細について指導を仰ぎました。その頃の当社氏子区域では若い人がかなり増えてきていたことから、各町内はむろんのこと企業や学校にも参加協力を依頼し、見よう見まねではありましたが、なんとか神輿を復活させることができました。その神輿巡行では、私は是非総先導をやってくれと宮司から頼まれてしまい、必死でなんとか四年も務めたのが昨日の事のようにです。そしてせっかく復活した神輿巡行ですので、今後長く存続させるために、地元の若者による神輿役員の組織をつくりました。これは今日の氏子青年会に繋がっていました。



感謝状を神社より贈呈

また他には、平成十三年に改築した社務所・参集殿の資金集めで苦勞したことです。これもまた役員総代皆さんと一生懸命頑張りました、今日見る立派な各建物が無事竣工しましたが、その竣工式典の最中に、愛子内親王様ご誕生の報が重なって、会場内が大いに盛り上がったことを思い出します。

今の神社を取り巻く状況は三十年前とは大きく変わってきています。参拝者を増やすのは簡単にできることではないですが、神社の運営を考える上でとても重要です。神職と総代皆さんが知恵を出し協力し合って、神社がますます地域のこころの中心として発展していくことを切に願っています。

夏越の大祓式

茅の輪神事のご案内



夏越大祓祈願祭

一、日時

六月三十日(日)

・午後四時半

・午後五時半

七月 一日(月)

・午後四時

・午後六時

・午後五時

※受付時間は執行開始三十分前からとなります。本殿内席数は四十名となりますので、人数を超える場合は次のご案内となります。ご了承ください。

一、初穂料

お一人様 一千元

※授与所での受付時にお納めください。

一、当日の流れ

① 受付にて申し込み、

人形(ひとがた)に氏名を記入

② 大祓詞奏上、切麻・大麻によるお祓い

③ 茅の輪くぐり

④ 御本殿にて祈願祭参列

⑤ 撤下品(おさがり)授与

⑥ 終了

※祭典は神職により執り進められます。所要時間は約三十分です。

水無月の夏越の祓い する人は 千歳の命 延ぶというなり

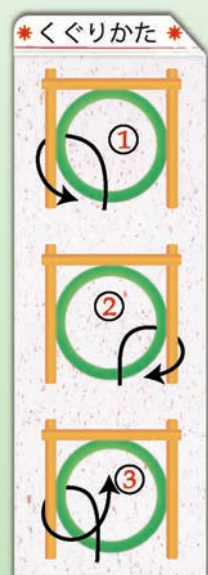
一年のちようど半分にあたる六月三十日には全国の神社で大祓式が行われます。この日、境内に茅(かや)で作られた輪が立てられ、「茅の輪(ちのわ)神事」と呼ばれる行事が執り行われます。この神事は半年の間に知らず知らずして身についた罪穢れを祓い除いて、無病息災・厄難消除を祈る神事です。

特に水無月の大祓式は、「夏越の大祓」とも呼ばれ、元気に暑い夏を乗り切るとともに、新たに迎える半年をさわやかにまた清らかに過ごしていくこうとする、私たちの祖先の生活の知恵とも言えるべきものです。

当社では三十日当日の朝から、神職の手により一本一本選り分けられたみずみずしい茅と青竹で作られた「茅の輪」が本殿前に設けられます。

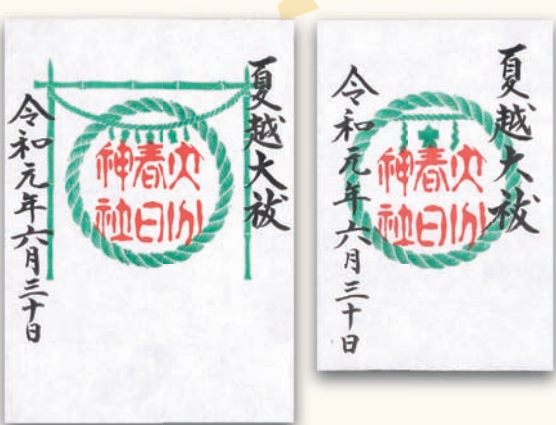
近年、この「茅の輪」設置期間中の参拝が増加傾向にあり、三年前より一般希望者を対象とした祈願祭を執り行っています。就きましては、本年も下記のとおりに斎行致しますので、ご都合に合う日時をご確認の上、是非来社頂きお祓いをお受けください。尚、この「茅の輪」は境内に数日間設けています。

茅の輪のくぐり方



茅(かや)で作られた大きな輪のことで、それをくぐることにより、知らず知らず犯した罪やけがれが祓われると云われています。くぐり方には決まりがあつて、左まわり・右まわり・左まわりと、8の字を書くように三度くぐり抜けます。そうすると身も心も清らかに祓われると云われています。

夏越大祓限定御朱印 初穂料三〇〇円



・朱印帳の大きさと茅の輪印の大きさが異なります。印は神社側の判断で押させて戴きますのであらかじめご了承ください。

・期日... 6月30日～夏祭(7月19日)まで